

ダブルディグリー・プログラム

張 勤

学生に、積極的に世界に出て行って挑戦し活躍すべき場を提供する目的として推進してきた取り組みとして、2017年9月に、国際教養学部と蘇州大学文正学院との「ダブルディグリー・プログラム」が、両大学の間における協定書と覚書の調印完了により、正式に開始した。国際教養学部では2017年度入学した国際教養学部生から選抜募集を始め、2019年春より蘇州大学文正学院に派遣される予定である。蘇州大学では、2017年度新3年生から制度が適用され、現在すでに1名の学生が国際教養学部の3年生に編入され、ダブルディグリーを目指し、勉強している。

海外の大学との間で中京大学の初めてとなるこの「ダブルディグリー・プログラム」は、2015年夏に構想され、その後、ダブルディグリー・プログラム検討チームが2年余りの時間をかけて、蘇州大学と連携を取りながら、綿密な下調べを経て、両大学のカリキュラム対照作業を行い、施行される場合の状況を細かく想定し、運用方針と方法を取りまとめ、制度設計をしてきた。更に国際教養学部教授会においても幾度も審議がなされ、最後に大学と蘇州大学の承認を得て実現に漕ぎ着けたものである。

国際教養学部の学生の出願条件としては、①2年次に在籍し、中国籍を有しないこと；②第2セメスターまでに学部固有科目（中国語ⅠA,ⅠB,ⅠC,ⅠD,ⅠE,ⅠF,ⅠG,イングリッシュ・ワークショップⅠA,ⅠB,イングリッシュ・スタディーズⅠA,ⅠB,国際教養学入門A,B,C,D）を修得すること、となっており、また留学条件としては、①2年次終了までに86単位を修得していること（学部固有科目40単位＝中国語ⅡA,ⅡB,ⅡC,ⅡD,ⅡE,ⅡF,イングリッシュ・ワークショップⅡ,イングリッシュ・スタディーズⅡ,演習Ⅰ,Ⅱ。学部固有選択必修科目8単位＝4科目。全学共通科目36単位。フロート単位10単位）；②1セメスター～4セメスターのTOTALGPAが3.0以上であること；③中国語検定試験HSK4級以上に合格すること、と決められている。

出願書類と提出時期は、学生に配布する「履修要項と出願要項」で明記され、提出先は名古屋教務課国際教養学部担当となる。なお各種の知らせは説明会やALBOでも周知することになっている。選考は7月下旬より「書類審査」と「筆記試験（中国語）及び面接」によって行われ、8月中旬に「内定通知」をし、翌年の3月上旬に教務課より「正式許可通知書」が発行される。

本プログラム参加の国際教養学部の学生は中京大学在学のうち、中京大学で1年次と2年次の2年間学んだ後、蘇州大学で半年間の現地プログラムに参加し、正式に蘇州大学へ編入して現地で3年次と4年次の2年間学ぶことになる。半年間の現地プログラムに参加するのは、中国の大学の新学期が9月より始まるので、3月に中京大学2年次を終了し、9月の編入までにはできる空白の時間を埋めるためである。この期間を、交換留学として現地へ赴き、語学強化期間と位置づけられている。

蘇州大学文正学院の卒業要単位は150単位であるが、中京大学で修得した単位のうち、蘇州大学の単位として認定できる上限は75単位で、残りの75単位を、作成が必須である卒論とともに修得することになる。150単位を取得し、且つ1年次からの成績が平均70点以上（GPA2.0以上）の者に蘇州大学から「文学士」の学位が授与され、蘇州大学を卒業した者には中京大学から「国際教養学士」の学位が授与される。

なお、蘇州大学に留学している間も、中京大学は、学生と緊密なコンタクトを取り、履修指導を行うことが実施要領に細かく決められている。

蘇州大学は1900年に創設され、江蘇省で最も歴史の古い大学で、211国家プロジェクトとして進められている総合大学である。文科、理科、工科、農科、医科など24の学部を有し、学生数が4万ほどである。蘇州大学文正学院は1998年に蘇州大学内に成立した独立学院で、現在学生数が1万ほどで、43の専攻を有する文理工総合の学院である。